|  |  |
| --- | --- |
|  | 小千谷旅する案内帳「千の谷の物語と雅色の郷　小千谷」 |

**慈眼寺**

ガイド案内

* 正式名称　船岡山　観音院　慈眼寺
* 宗派　　　　真言宗智山派
* 創建　　　白雉元年（650年）　　　薩明大徳による　（寺伝）

貞観2年（860年）　　　　真雅による（慈眼寺書上）　の2説がある

* ご本尊　　聖観世音菩薩　　（寺伝によると弘法大師作）
* この寺の一番の見どころは何といっても、「小千谷談判」の行われた会見の間であろう。慶應4年旧暦5月2日、西軍４将と長岡藩家老河井継之助が対面したのは正にこの場所である。河井は武装中立を掲げ、会津藩との仲立ちを名乗り出たが、願いは聞き入れられずやむなく戦火に巻き込まれていった。この寺は薩摩藩の宿舎になっており、会談は陣屋で行われるはずであったが直前の片貝での戦闘の影響で、急遽変更された。小千谷陣屋は現存せず石碑を残すのみである。もし、会談が陣屋で行われていたらその大切な史跡を失うところであった。

エピソード

* 平成30年５月戊辰から１５０年を記念して司馬遼太郎が揮毫した書を石碑にした。昭和４０年８月に司馬氏が「峠」の執筆のため取材にこの寺を訪れた。当時氏はまだ記者を退職したばかりで、無名の人物であったが、当時の寺庭夫人（現住職の祖母）が只者ではないと思い、揮毫を願うと快く書いてくれた。
* この書を使うにあたり、司馬氏の記念館にお願いしたところ、最初は断られてしまった。住職はあきらめきれず、直接記念館に出向いて丁寧に説明したところ条件付きではあるが、許可を得ることができた。
* 司馬氏の正式な許可を得た石碑は日本全国で１０に満たないが、そのうちの２つの碑がこの小千谷にあるということはいかに司馬氏が戊辰戦争において河井継之助と小千谷談判を重要視しているかの表れであろう。
* 戊辰戦争以外にもこの寺はユニークな歴史がある。元禄４年（１６９１年）ご本尊様が江戸へ出開帳に行かれ、最初の予定より延びて６０日にも及んだ。
* その折、あまりに人気が高かったため時の将軍綱吉公が参拝に訪れ、和歌を書いた扇子を奉納された。今でも寺宝として現存している。このような地方からの出開帳というのはしばしばあったが、経費もとても掛かるため、リスクも大きかった。中には経費の借金が払えず、ご本尊様をかたに取られてしまうケースもあった。

関連サイトURL

　http://www.myoukouji.com/

住所

新潟県小千谷市川井114

メモ